

七飯老人大学 ニュース

2022. 7. 12 発行:七飯老人大学事務局

第7回講座「倉本聰からの提言」(6/30)

現在87歳の脚本家倉本聰氏が、「文藝春秋」5月10日発売号に「老人よ、電気を消して『貧幸』に戻ろう!」を寄稿しました。今講座では、氏の思いや願い、考えていることについて、氏と深いお付き合いがあり、倉本聰富良野自然塾特別インストラクターである金澤晋一氏が対談(事前に収録済み)を取り入れた講演をしました。後半は、自身の専門である「環境」の観点から、倉本氏の提言の意味についてさらに深く語っていただきました。

対談の中で語られた 倉本聰 《語録》

◆老人は、貧しい時代を経験している。貧しい時代に育ってきた。「それは不幸だったのか?」自分はそう感じなかった。貧しさの中の幸せを「貧幸」と表現した。

★近著「破れ星、流れた」の帯にこんな文章が書かれています。「防空壕の闇の中、家族で賛美歌を唄った。明日も未来もなかったのに、人生で一番、倅せな時間だった。」★

◆気候変動などの環境問題、廃棄物の問題、豊かさがもたらした弊害やツケ、その責任は、豊かさを享受してきた私たち老人にあるような気がする。

◆弊害に対する対策が、また新たな弊害を生み出す。いつか、膨大な量のソーラーパネルを処分しなければならない時がくる。

◆「経験」と「責任」を考え直すべきだと考えている。簡単明快な方法は「時代を戻す」ことである。

この状況を、このまま、若い人たちに手渡していいはずはない。

七飯老人大学
第6回講座
「春の見学会」
3年ぶりの実施でした。



参加者は46名でした。

サラキ岬 咸臨丸モニュメント(約1/5サイズ)前での記念写真です。

七飯老人大学 第6回講座 「春の見学会」



木古内郷土資料館の学芸員 木元 豊さんが、木古内町の歴史や文化のこと、咸臨丸のこと、資料館(旧鶴岡小学校)のことなど、丁寧に、わかりやすく解説してくださいました。昼食のあと、展示品など自由見学をしました。生活道具や鉄道資料など、「昔あったよね」「懐かしいね～」と言いながら手に取ったりしていました。

